

令和6年度 北見医師会看護専門学校 自己評価 (令和5年度の運営について)

評価期間：令和6年3月25日～3月28日

1. 評価項目について

本校の学校運営の方針と「学校評価を活かした専修学校の質保証・向上に向けて～専修学校における学校評価実践の手引き～」専修学校における学校評価ガイドラインを基にして、評価の領域を11区分し、各領域ごとに評価項目を設けた。

2. 評価の方法について

教職員に対して、各評価項目を5段階で評価し、その評価点の平均値を算出して評価項目の評価点とする。また、各領域の評価点は、領域内の各評価項目の評価点の平均値とする。

5：そう思う、4：ややそう思う、3：どちらでもない、2：あまり思わない、1：思わない

大項目	評価項目	評価点	大項目
I 教育理念・目的・卒業生像	1 学校の理念・目的・卒業生像が教職員・学生・関係者に周知されている。	5.0	4.5
	2 自分は教育理念・教育目標・卒業生像を理解している。	4.0	
II 学校運営	3 組織体制と意思決定システムが適切に機能している 教職員間の連携が図られている	3.5	4.2
	4 入学試験は適切に実施されている	4.6	
	5 学則等諸規程の整備、見直しは適切に行われている。	4.0	
	6 教育活動等に関する情報公開は適切に行われている。	4.8	
III 教育活動	7 教育理念、教育目的に沿った教育課程の見直しがされている。	3.8	4.0
	8 自分は教育課程を理解している。	3.5	
	9 教育課程を学生に周知している。	4.3	
	10 教職員は本校の倫理規定を理解し遵守している	4.1	
	11 学生の授業評価が行われている。	3.8	
	12 看護師資格試験に関する指導計画が立案されている。	4.3	
	13 成績評価・単位認定、卒業判定の基準は明確であり適切に認定している	4.0	
14 教育目的・目標に沿った授業ができる要件を備えた教員を確保している	4.0		
15 自分は指導力育成など資質向上のための研修等の参加や研究に取り組んでいる	3.9		
IV 学生指導等	16 学習困難者への支援体制が整備されている	3.6	3.8
	17 退学率の低減が図られている。	3.2	
	18 学則・諸規程等を遵守し、また学生へ周知している	4.3	
	19 進学・就職に係る支援体制がある	4.0	
V 学修成果	20 看護師資格試験の合格率等から課題、問題点を把握し、その対策が行われている	4.8	4.7
	21 卒業生の社会的な活躍及び評価を把握している	4.6	
VI 学生支援	22 奨学金制度等、経済的な支援について周知している	4.8	4.6
	23 健康診断が定期的に行われている。	4.8	
	24 学生が心身について相談できる環境が整っている	4.7	
	25 保護者が相談できる体制がある	4.2	
	26 学生の傷害・賠償・感染事故等の補償制度を周知している	4.7	
VII 教育環境	27 校舎の管理が、適切に行われている	3.7	3.9
	28 看護教育に必要な教材・教具が整備されている	4.2	
	29 教育に必要なICT環境が整備されている	3.9	
	30 図書室は学生に使用しやすい環境に整備されている。	3.3	
	31 実習環境が整っている	4.3	
	32 チューター制度により、学生間の交流・連携が図られている	3.9	
	33 衛生面（手洗い・含嗽など）・感染防止対策が適切に行われている	4.1	
	34 学校の防災対策が整備されている	4.0	
VIII 学生募集	35 高等学校等に定期的に学校説明会を実施している。	4.8	4.6
	36 オープンキャンパスを開催している	4.6	
	37 HPに学校行事・資格取得・就職状況等の情報を適時載せている	4.5	
IX 財務	38 教職員が予算、決算等の財務状況を把握できるようにしている	3.7	3.8
	39 予算・収支計画に参画している	3.9	
X 法令等の遵守	40 法令、専修学校設置基準等が守られている	4.5	4.2
	41 個人情報に関し、その保護のための対策がとられている	4.0	
	42 自己評価の実施と問題点の改善を行っている	4.1	
XI 社会貢献・地域貢献	43 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	4.0	4.0

3. 実施結果及び課題

(1) 自己評価の全体平均は4.2（前年4.2）であった。評価者は前年と同じ教職員で、教職員の構成は学校経験6～10年が4割を占め、20年以上と5年未満は3割である。また、評価にあたっては評価文言の共通理解を図るために「自己評価担当者委員会」を立ち上げ評価項目の内容・表現は適切か、評価項目に合致した資料になっているのか見直しを行った。

(2) 前年度の重点課題等の結果

- ① II-3は前年度最低（3.3→3.5）で今回わずかに上昇した。今年度は教員数1名減、担任補助者を配置せず業務を進めて行くことになり、今まで以上に教職員の連携が重要となり、業務を見直し整理が必要である。
- ② IV-16・17は前年度よりも低下した。入試成績、科目試験成績から毎年に学力は低下傾向にある。基礎学力に不足があっても入学する現状があり、学習についていけずに退学や留年に繋がっている。令和6年度入学生から看護関連学習と基礎学力アップに向けて入学前にゼミを実施した。学習意欲が向上し学習習慣が身に付き自主的に学習を進めていけるよう支援し、状況を見守って行く。
- ③ V-20は前年3.8から4.8と大きく上昇した。模試結果の分析と学生の学習習慣を個別面談により把握し、その学生に適した学習方法を学生とともに見出し個別指導を継続した。実習の学びが国家試験に大いに影響することを意識づけ、また外部講師による国試ゼミ実施により国家試験合格率アップに繋がった。入学前からの学習支援と入学後の3年間学習計画を学生自ら立てて継続できるよう支援していく
- ④ VII-30は前年4.1から3.3に低下した。人件費削減のために図書室利用時間を短縮（開館10：30から12時に変更）したことが影響した。利用状況データからは前年と大きな変化はない。今後も学生の意見や利用状況を把握していく。

(3) 令和6年度の重点課題

- ① Ⅷ学生募集（学生数の確保）：令和3～5年評価点は4.6。自己評価点の低下はないが学校存続に係る重要課題である。高校新卒者だけではなく社会人入学生の増加を目指したポスター制作や掲示場所の検討を行う。Instagramの更新、社会人に対するの随時学校見学を実施する
- ② V学修成果(国試合格率の維持・上昇)：全学年に学習アプリ教材の導入、2年生にも国試ゼミを受講できるよう調整するなど、1・2年時からの国試学習の強化に取り組む
- ③ IV学生指導（学習困難者への支援体制と退学者の低減）：学生個々の学習状況等を把握し個別の学習指導を実施していく。